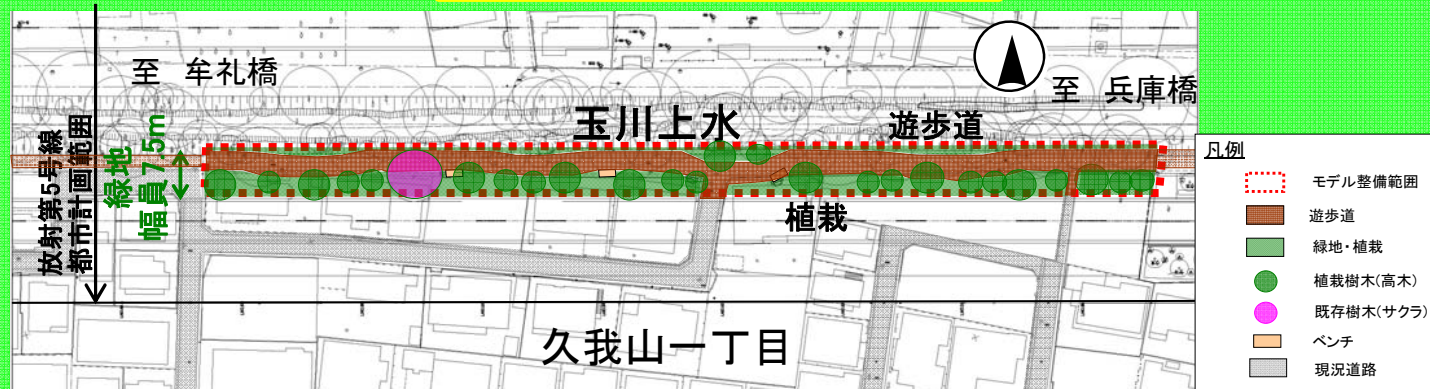


③南側緑道モデル



■モデル整備の考え方■

「玉川上水の環境との一体性」、「歩行の安全性・快適性と歴史や自然とのふれあい」、「自然環境の保全」、「対岸との連続性」、「環境施設帯との連続性」、「車道からの影響の緩和」という6つの課題に対応した植栽や施設としました。

■植栽樹種等について

特に植栽樹種は、高木・中低木・草本類ともに玉川上水を中心とした「在来種(自生種)」を基本とし、既存樹木の保全や道路予定地内の樹木の移植も行いました。

■遊歩道の舗装について

玉川上水の環境との一体性と歩きやすさを考慮し、南側モデルでは、土に土が硬くなる材料を混ぜた舗装(土系舗装)としました。土が硬くなる材料の違いにより、今回は3パターンを整備しました。

また北側モデルでは、舗装を通して雨水が地中に浸透する高炉スラグ(※)舗装としました。

(※)高炉スラグとは、製鉄段階で派生する骨材です。

■車道側の生垣等について

生垣(イヌツゲ、ヒサカキ等)と緑化カゴ、またそれらを組合せたタイプを整備しました。

●現在の取組状況

- ・道路構造に関する検討を実施し、道路整備案を作成しています。
- ・整備に関わる測量、調査、道路設計及び緑地設計を継続して進めています。
- ・植物の保全対策について、樹木診断、増殖実験を継続して行っております。

問い合わせ先

- ・道路モデルに関する事
第三建設事務所 工事第一課 環境対策担当係
Tel 03-3387-5347
- ・緑地モデルに関する事
西部公園緑地事務所 工事課 緑化推進担当係
Tel 0422-47-0364

【発行】

東京都第三建設事務所 工事第一課
東京都中野区中野4-8-1 中野区総合庁舎2階

第三建設事務所のHP

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/sanken/index.html>

平成22年度
登録 3号

東京都市計画道路幹線街路放射第5号線

第4号

三建・放5ニュース

VOL.4 2010.6
【発行】
東京都第三建設事務所
〒164-0001
中野区中野4-8-1-2F
Tel 03-3387-5347

道路と緑地のモデルが完成しました。

放射第5号線の将来の道路空間を直接見て実感して頂くために、整備を進めてまいりましたモデル工事が完成しました。現地には、舗装、築提、遮音壁等いろいろなパターンを用意しておりますので、是非ともお立ち寄り下さい。

東京都では、下記のとおり、現地で見学会を開催いたします。

当日は、東京都職員が完成したモデルについての疑問や質問にお答えします。また、皆様方にご意見を承り、今後の整備に活かしたいと思っております。

モデル見学会のご案内

日付:平成22年6月11日(金曜日), 6月13日(日曜日)

時間:10:00~16:00(両日とも)

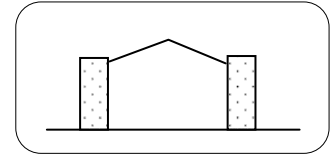
場所:モデル整備区間内(下記案内図参照)



コンクリートタイプ



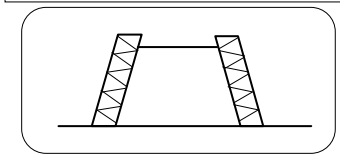
築堤内の植樹面積を最大限確保するために、擁壁が直立したタイプ。擁壁表面は、コンクリートの打ち放しです。植樹可能幅員 約4.0m



疑石ブロックタイプ



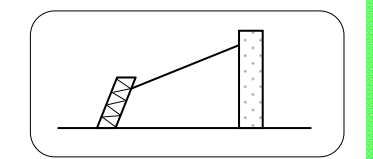
ブロック積上げのため、擁壁前面が傾斜したタイプ。景観を良くするために、疑石ブロックを使用しました。植樹可能幅員 約1.6m



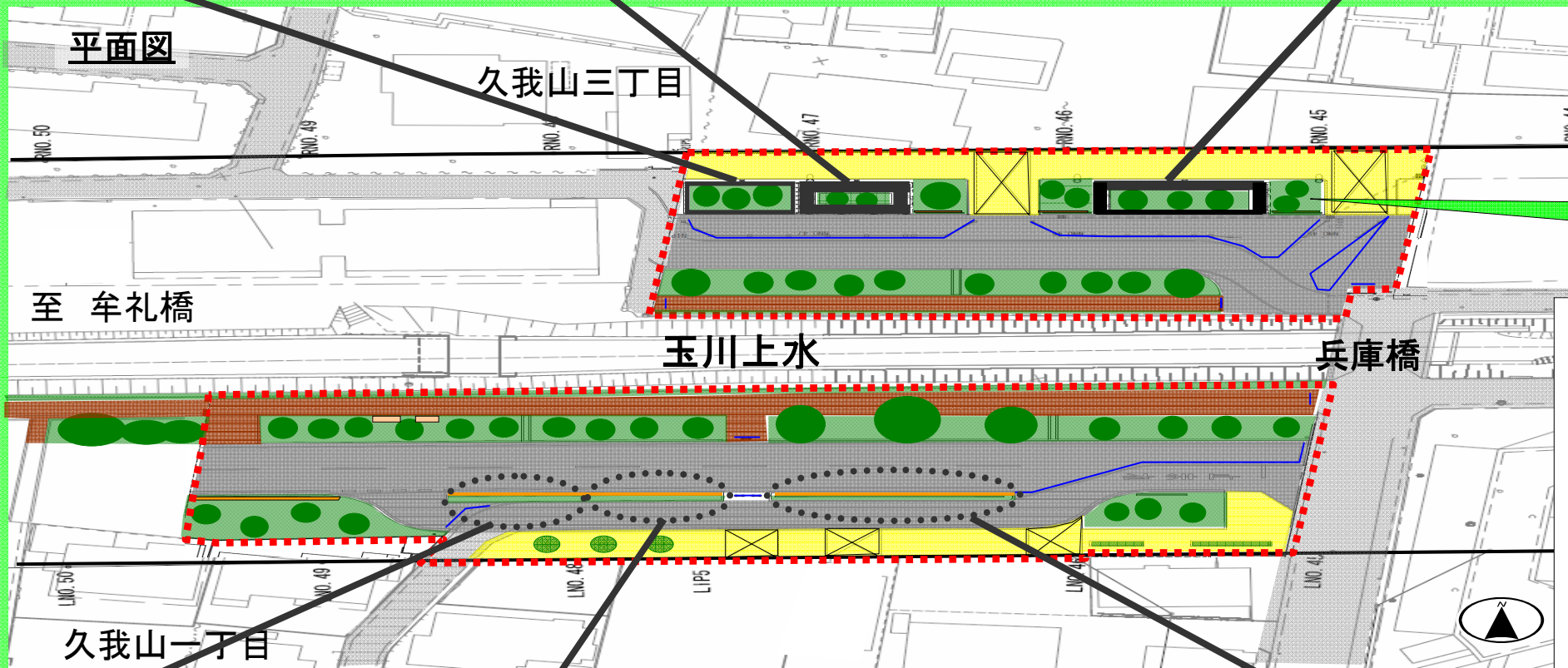
コンクリート+疑石ブロックタイプ



圧迫感を低減するため、植栽スペースを歩道側に傾斜させたタイプ。歩道側のみ疑石ブロックを使用しました。植樹可能幅員 約3.2m



築堤の比較



植栽については、③緑道モデルの考え方と同一です。

①北側道路モデル

沿道からの車の出入りが少ない区間に採用されるタイプ。歩車道を分離し、両者の間に植樹帯(築堤)を設け、騒音の低減を図り、緑地面積を多くすることができます。出入口付近は、本線への見通しをよくするため透明タイプの遮音板を使用しています。

②南側道路モデル

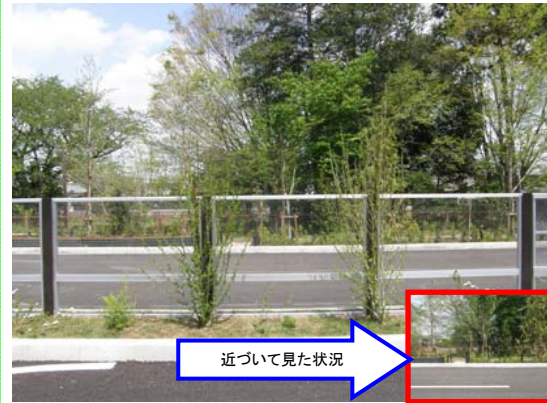
交差する道路や沿道からの車の出入りが多い区間に採用されるタイプ。宅地から車道への出入りを集約することで、本線とのアクセスの安全性を確保します。防音対策として、遮音壁を連続的に設置します。

凡例

- モデル整備範囲
- 自転車・歩行者道
- 緑地・植栽
- 遊歩道
- 車道・副道
- 歩道切下げ
- 樹木(高木)
- 遮音壁
- 現況道路
- パイプ柵 (将来はなくなります)

遮音壁の比較

遮音透明タイプ



眺望性に優れ、良好な日照と景観が得られる透明な板の遮音壁。本線車両や側道の車や歩行者が目視でき、安全性が向上します。歩道側の植栽と玉川上水の樹木との一体感が得られます。

近づいて見た状況

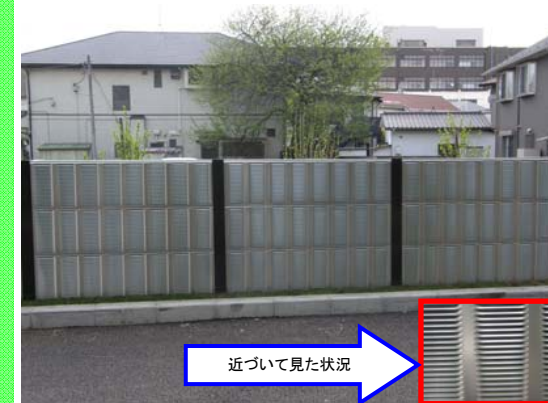
吸音透明タイプ



眺望性があり、良好な日照と景観が得られ、特殊なフィルムと透明な板を組み合わせた遮音壁。本線車両や側道の車や歩行者が確認でき、安全性が向上します。また、歩道側の植栽と玉川上水の樹木との一体感が得られます。

近づいて見た状況

吸音タイプ



2枚の金属製の板に吸音材を挟んだ標準的な遮音壁。車道及び玉川上水は見えなくなります。歩道側の背面を塗装したり、植栽をして、景観に配慮できます。

近づいて見た状況